

月刊 みんなねっと

9
2024



百鬼夜行（部分）

特集 能登半島地震被災地をたずねて



家族向け交流サイトみんなねっとサロン

～親、子ども、きょうだい、配偶者・パートナー等 ご家族の方限定～
さまざまな精神障害をもつ人たちの家族を対象に、家族同士が安心して気軽に繋がることができる、相談・情報交換を行うコミュニティサイトが「みんなねっとサロン」です。
With コロナ時代の新しい家族ピアサポート活動が始まっています。
匿名で全国どこからでも利用できます。スマートフォンで簡単にアクセスできます！

■ご利用方法（無料）

<https://minnanet-salon.net/service>
（みんなねっとサロンで検索）または
QRコードよりアクセスし、登録してください。



■お問い合わせ

minnanet.salon@seishinhoken.jp（メール）

◆メルマガ会員募集中◆

みんなねっとでは、メールマガジンを発行しています（無料）。当会の活動だけでなく、各都道府県連等関係団体の情報なども随時お知らせします。

賛助会員の方だけでなく、一般の方も「最新情報がほしい!!」という方も、ご登録できます。ご登録方法は、みんなねっとのホームページからご覧ください。
Twitter（ツイッター）やLINE（ライン）での情報提供も行っています。



公式ツイッターはじめました
@minnanet で検索☆



LINE公式アカウント
@minnanet



オンラインタイプの会員「WEB賛助会員」 （年度会費3,600円）募集のお知らせ

～従来の郵送版ではなく WEB 上から「月刊みんなねっと」を閲覧でき、
スマホやPC、タブレット等からいつでもアクセス OK です～

★申し込み方法★

1. 新規でお申し込み

みんなねっとのホームページにアクセス→右上の人のマークから個人IDを取得→賛助会員の申込み（オンラインタイプ）→会費納入確認後に閲覧開始となります。

2. すでに個別賛助会員の方でオンラインタイプへの切り替えをご希望の方

みんなねっとのホームページにアクセス→右上の人のマークから個人IDを取得→マイアカウントにログイン→マイアカウント内紫色の賛助会員ご入会済の方はこちらより詳細情報を入れて登録→マイアカウント内オンラインタイプへ変更をクリックから進む→完了→会費納入確認後に閲覧開始となります。

3. 家族会・複数賛助会員の方は事務局へご相談ください。

特集 能登半島地震被災地をたずねて

被災地の特徴

本年1月1日に発生した能登半島地震はM7・6の最大震度7以上とされました。時間経過とともにその甚大な被害も明らかになってきています。

能登北部（奥能登）は高齢化が進んでいる地域で、人口約5・5万人とのことです。能登北部には精神科入院病床はなく、七尾市などの能登中部地域または能登南部地域に移動して治療を受けてきました。

奥能登には精神科外来ができるところは、5か所あり、約2000人の精神疾患の方をカバーしているとのことでした。

自治体が開設した避難所には、市民がピーク時において約3万4000人が避難したとのことでした。

二次避難所の設置やその利用決定の間までをつなぐ1・5次避難所なども設置されていました。

令和6年6月18日時点において、1次避難所に1066人、

1・5次避難所に37人、2次避難所に1291人、広域避難所に77人の合計2471人が避難しているとのことでした。その他、家族や親戚の家やみなし仮設住宅、地域を離れての生活をされている方が多くいます。しかし、この中に精神疾患をはじめ、障害のある方たちがどれくらい含まれているのか、また、把握されていない方がいるのかは、不明です。

最初の訪問

みんなねっととしては、2月20～23日にJDF有志の一員として、小幡事務局長が能登半島地震被災地訪問をおこないました。現地の状況を見ると、復興



奥能登道中

以外にも被害発生があること、富山県や新潟県の被害状況も含めて、精神障がい者・家族をどう支援していくのか。

災害が起こると、その被災者に与える心理的影響は3つに分けられるとも言います。①災害直後の恐怖やトラウマ反応、②

死別や喪失による悲嘆反応、③避難所での生活によるストレス反応。これらは時間と共に回復することが多いですが、一部の被災者は精神疾患を抱えることもありま。私たちとしては、この予備軍の方々も含めて、今後の医療や生活のあり方の課題が残ります。

また、復興が思うように進んでいない過疎地域でもある奥能登地域で、外見的に気づきにくい精神障がいを抱える人々が避難所や地域での生活に適応するのが難しいことがあります。

環境の変化によるストレスやパニック状態に陥ることがあり、避難所でのトラブルが生じることもあります。患者さんた



統合失調症という悪魔

竹内貢一

私がパートナーの統合失調症という奇怪な病気に出会ったのは、約14年前です。聴こえない



声が聴こえる。悪口、盗聴器を仕掛けられているから始まり、止まらない会話幻聴、延々と続き、夫のわたしはなす術もなかったです。

初めての医療へ。電気痙攣

まるで子どものように素直でした。子どもに戻った？と
思った瞬間でした。その後、自分で履歴書を書き面接、アルバイトができるようになりました。

わたしは統合失調症が治ったのかと勘違いしていましたが、ただの勉強不足でした。

そして再発

パートナーは薬を飲まない、

飲んでも吐く、飲んだと嘘をつく毎日。病院を拒否し、「主治医を首にしろ」と院長宛てにFAX。わたしは謝罪しに病院へ行きました。また、行方不明になったことがあり、約1週間後アメリカで発見されました。帰国後、また家出し、今度は赤坂警察署の方々にお世話になりました。

2020年に母親が亡くなり断薬、悪魔の陽性期間2年が始まりました。まるで悪魔に取りつかれたように人格が変貌しました。

わたしの携帯には着信！

警察から「●●さんをご存じですか？」と何回も呼び出され



第16回全国精神保健福祉家族大会 みんなねっと北海道大会

10月12日タイムスケジュール		配信予定	
9:00	受付開始	ライブ (生中継)	
9:30	オンライン接続開始		
10:00	開会式：主催者挨拶・来賓挨拶		
10:30	行政説明：厚生労働省		
10:50	基調講演「自分自身とともに」 ～リソースとしての当事者家族の経験の可能性 講師：向谷地生良氏 /浦河べてるの家理事長・北海道医療大学特任教授		
11:50	昼休憩（50分）		
12:40	特別講演「家族会の可能性～変革は小さな声から～」 講師：伊藤千尋氏/淑徳大学准教授		
13:40	活動報告：みんなねっと理事長 岡田久実子		
13:55	大会宣言・次回開催地の紹介		
14:10	移動・休憩		
14:25	各分科会 (第1分科会) やってみよう家族の当事者研究 (第2分科会) 本人・家族・支援者のみんなでコミュニケーションしよう ～メリデン版訪問家族支援のもたらすもの (第3分科会) 家族の語りを聞くオープンダイアローグ	アーカイブ (録画)	
16:40	閉会（各分科会でまとめ・終わりの挨拶）		

10月11日（金） 『浦河べてるの家』見学オプションツアー

7：00～19：00 札幌駅北口発着



第16回全国精神保健福祉家族大会 みんなねっと北海道大会


対話を家族のものに 孤立から支援の輪の中へ～真のつながりを求めて



日時
2024年10月12日(土)

場所
北海道大学学術交流会館
札幌市北区北8条西5丁目8-1
(札幌駅西改札を出て北口・徒歩8分)

参加申し込み及び支払方法について

参加方法	参加費	申込方法	支払方法
会場参加 (締切 9/23まで延長)	3,000円(家族・一般) or 1,000円(当事者・学生)	みんなねっと ホームページより	クレジットカード or 郵便払込票
オンラインのみ (締切 10/5)		QRコード	
オプションツアー すべて 締切	50名になり 次第締め切ります		

SOLD OUT

参加申込み ネットからのお申し込みでお困りの方はみんなねっと事務局へご相談ください！
「みんなねっとホームページ」<https://seishinhoken.jp/events/2024hokkaido>

- ※全体会、分科会の参加は事前登録制です。
会場都合等で分科会は希望に添えないこともあります。早めの申し込みください。
- ・当日ライブでの配信は全体会のみです。(分科会はアーカイブ配信)
(全体会・分科会は10月21日より期間限定アーカイブ配信予定です)
- ・大会誌配布 当日会場に来場された方には大会誌をお渡しします。
オンライン参加(当日会場に来られない方)はデータ配信のみになります。

お問い合わせ 北家連 011-756-0822 (月～金10:00～16:00)
チケット問合せ みんなねっと 03-5941-6345